

## 第90回触媒化学融合研究センター講演会

本講演会は、文部科学省の「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」として、筑波大学が代表機関、産総研が共同実施機関として運営している「大学×国研×企業連携によるトップランナー育成プログラム」の支援により実施されます。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時: 2022年10月21日(金) 15:00~17:10

場所: 第3・第4会議室(6602・6603室)及びTeams配信

申込Forms: <https://forms.office.com/r/TykPJX3L9h> 【締切: 10/14(金)】

15:00~16:00

◆独自に設計したキラルスルフィド触媒の創製

＜講師＞長崎大学 総合生産科学域 環境科学領域  
白川 誠司 准教授



2014年、長崎大学で独立した研究室を完全にゼロから立ち上げるようになった。以前から、独立したら必ず行おうと決めていた研究テーマがある。それは、オリジナル有機触媒の開発である。長崎大学白川研究室の一期生として配属されてきた学部三年生と共に、悪戦苦闘を重ねること数年、なんとかオリジナル触媒と言えるような独自のキラルニ官能性スルフィド触媒を創製することができた。本講演では、独自のキラルスルフィド触媒開発の経緯と、不斉触媒反応への展開における最近の成果について紹介する。

16:10~17:10

◆協働金属触媒による有機合成反応

＜講師＞京都大学大学院工学研究科 材料化学専攻  
中尾 佳亮 教授



金属と有機化合物である配位子の組み合わせは無限であるため、遷移金属触媒による新反応が今後も見つかる可能性には大いに期待が持てる。しかしながら現状は、様々な金属錯体と配位子が市販されるようになって、研究者が扱う触媒系が互いによく似たものになり、本質的に新しい反応が見つかりにくい状況にある。我々は、異なる金属錯体を組み合わせて用いたり、同一分子内に複数の金属を有する錯体を用いることによって、従来の単一金属触媒では難しい分子変換の実現を目指して研究に取り組んでいる。特に、ありふれた有機化合物を、これまでになかったような結合活性化形式や選択性で反応させるような触媒系について紹介する。